

---

## 宇田川武久年譜

1943年（昭和18年）

1月 東京都杉並区に生まれる

1968年（昭和43年）

3月 國學院大學文学部史学科卒業

4月 國學院大學大学院文学研究科日本史学専攻修士課程入学

1969年（昭和44年）

4月 國學院大學文学部副手

1971年（昭和46年）

3月 國學院大學大学院文学研究科日本史学専攻修士課程修了（文学修士）

4月 國學院大學大学院文学研究科日本史学専攻博士課程入学

1974年（昭和49年）

3月 國學院大學大学院文学研究科日本史学専攻博士課程単位取得退学

1975年（昭和50年）

4月 國學院大學文学部兼任講師（継続）

1979年（昭和54年）

3月 文化庁文化財保護部管理課国立歴史民俗博物館（仮称）設立準備室（文部技官）

1981年（昭和56年）

4月 国立歴史民俗博物館情報資料研究部助手

1982年（昭和57年）

4月 国立歴史民俗博物館情報資料研究部助教授

1987年（昭和62年）

1月～4月 朝鮮王朝と日本との武器交流に関する研究のため文部省在外研究員として韓国に滞在、国立中央博物館・陸軍士官学校博物館・高麗大学博物館・ソウル大学図書館等の所蔵する武器関係資料を調査研究する。

1992年（平成4年）

4月 日本学術振興会科学研究費研究成果公開促進費『東アジア兵器交流史の研究』の交付を受ける。

5月 国立歴史民俗博物館情報資料研究部教授

1994年（平成6年）

11月 『東アジア兵器交流史の研究』により博士（文学）号（國學院大學）を授与される。

1999年（平成11年）

4月 総合研究大学院文化科学研究科教授併任

国立歴史民俗博物館情報資料研究部長併任（2004年迄）

2001年（平成13年）～2003年度

日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（B）（1）「分析化学的手法による前近代金工技術の比較研究」（研究代表者）

2004年（平成16年）～2005年度

日本学術振興会科学研究費補助金・特定領域研究「分析化学的手法による銃砲技術史の相関研究」（研究代表者）

2004年（平成16年）

4月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館研究部教授

2006年（平成18年）～2008年度

（独）日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（B）（一般）「江戸初期と幕末維新时期における銃砲の伝統と革新に関する総合的研究」（研究代表者）

---

**2008年**（平成20年）

3月 人間文化研究機構国立歴史民俗博物館・総合研究大学院を定年により退職

## 宇田川武久著作目録

### I 著書

- 1977年10月 『改正三河後風土記』(上・中・下)校注 秋田書店  
1981年12月 『瀬戸内水軍』教育書新書65 教育社  
1983年8月 『日本の海賊』誠文堂新光社  
1990年2月 『鉄炮伝来』中公新書962 中央公論社  
1992年4月 『信長を歩く』プレジデント社  
1993年1月 『東アジア兵器交流史の研究』吉川弘文館  
1998年11月 『鉄砲と石火矢』日本の美術390 至文堂  
2000年10月 『江戸の砲術—継承される武芸—』東洋書林  
2002年10月 『戦国水軍の興亡』平凡社新書158 平凡社  
11月 『鉄砲と戦国合戦』吉川弘文館  
2003年3月 『ニッポン海戦史』監修執筆 実業之日本社  
2006年10月 『真説鉄炮伝来』平凡社新書346 平凡社  
2007年10月 『鉄炮伝来の日本史』編集執筆 吉川弘文館

### II 論文

- 1970年3月 「北条水軍梶原景宗について」『国史学』81  
4月 「海賊衆来島村上氏の性格」『海事史研究』128  
1971年12月 「厳島合戦における来島氏の動向」『軍事史学』27-3  
1972年9月 「戦国期内海警固衆の一性格」『軍事史学』8-2  
10月 「大内氏警固衆の消長と毛利氏の水軍編成」『海事史研究』19  
1973年4月 「戦国末期における伊予海賊衆」『國學院雑誌』74-4  
1975年4月 「足利義植・義澄・義晴・義輝」『足利將軍列伝』桑田忠親監修 秋田書店  
1976年2月 「中世海賊衆の終末」『日本歴史』333  
5月 「戦国大名毛利氏の水軍編成と瀬戸内海賊衆」『歴史手帖』4-5 名著出版  
1977年3月 「豊臣政権下における毛利氏の水軍編成」『軍事史学』12-4  
12月 「海賊と水軍」『下剋上時代の文化』佐々木銀弥編 文一総合出版  
1979年5月 「瀬戸内水軍」『図説人物海の日本史』3 遣明船と倭寇 毎日新聞社  
1983年12月 「戦国大名大友氏の水軍編成」『坂本太郎博士頌寿記念史学論集』吉川弘文館  
1987年3月 「李朝前期の兵器の諸相と『兵器図説』」『国立歴史民俗博物館研究報告』12  
6月 「鉄炮伝来と倭寇」『歴史地理教育』413  
1990年3月 「近世初頭における火器の普及と生産」『国立歴史民俗博物館研究報告』25  
10月 「鉄炮伝来と普及の実体」『火縄銃』土浦市立博物館  
1991年4月 「鉄炮伝来の再検討」『南蛮文化の到来』梅原猛他監修 作品社  
1992年3月 「壬辰・丁酉の倭乱と李朝の兵器」『国立歴史民俗博物館研究報告』17  
11月 「石火矢の伝来経路」『Museum Kyushu』42 特集大航海時代の日本  
11月 「海を渡った火縄銃」『國學院雑誌』89-11  
11月 「大友宗麟と大砲」「戦国大名大友宗麟—その実像に迫る—」大分市歴史資料館  
1993年2月 「近世初頭における城付武具の実体と変容」『国立歴史民俗博物館研究報告』50  
3月 「中世海賊衆の解体—村上氏一族の分裂—」『米原正義先生古稀記念論文集戦国織豊期の政治と文化』群書類従完成会  
4月 「砲術の発生と展開」「西洋流砲術の受容」日本史小百科『武道』97 東京堂  
7月 「鉄砲の伝来と堺」『FUKUOKA STYLE』7 青磁社

- 
- 9月 「鉄砲の伝来と普及」『開館10周年記念特別展鉄砲伝来450年』鹿児島県立歴史資料センター 黎明館
- 12月 「南海ネットワーク東南アジアとの交流—大砲を手がかりとして—」『歴史地理教育』511
- 1994年 9月 「甲冑着用次第と甲冑の変遷」『武家の服飾』日本の美術 340 丸山伸彦至文堂
- 12月 「光秀と信長」『明智光秀のすべて』二木謙一編 新人物往来社
- 10月 「鉄砲記の史的価値」『鉄砲』千葉県立総南博物館
- 1995年 1月 「火砲にみる東西文化の交流」『無限大』97
- 3月 「倭寇—アジアを震撼させた海賊の虚実」『FRONT』特集海賊 リバーフロント財団
- 9月 「鉄砲と石火矢の系譜を探る」朝日百科日本の歴史14『環日本海と環シナ海日本列島の十六世紀』朝日新聞社
- 1996年 3月 「近世初頭における石火矢の出現と普及」『国立歴史民俗博物館研究報告』66
- 3月 「国友鉄砲鍛冶」『長浜市史』第2巻 秀吉の登場 長浜市役所
- 5月 「石火矢の伝来」『研究発表講演論文集』産業考古学会
- 6月 「戦国時代における火砲の伝来」『歴史九州』特集南蛮文化と鉄砲伝来
- 11月 「毛利氏の水軍編成」『毛利元就のすべて』河合正治編 新人物往来社
- 1997年 6月 「豊臣氏の水軍編成と国内統一戦」『戦乱の日本史』10 第一法規
- 1999年 3月 「軍拡に生きた鉄砲鍛冶」『戦いのシステムと対外戦略 人類にとって戦いとは2』編集分担執筆 東洋書林
- 11月 「砲術史からみた関ヶ原の戦い」『徳川家康関が原四〇〇年』名古屋城博物館
- 2000年 3月 「海を渡った日本刀」『岡山藩の砲術と鉄砲鍛冶』『長船町史』刀剣篇
- 7月 「戦乱の時代における砲術師の実態」『近世土佐の砲術史』高知県立歴史民俗資料館
- 7月 『日本歴史大事典』(1～5) 夷弓 以下50項目 小学館
- 2002年 7月 「戦乱のなかの砲術と砲術師」『第12回企画展『戦国大名朝倉氏』福井県立一条谷朝倉遺跡資料館』
- 10月 「鉄砲の名称と形態」『火縄銃』名古屋城博物館
- 11月 「16世紀末の対外戦と降倭」『イデオロギーの文化装置 人類にとって戦いとは5』東洋書林
- 2003年 3月 「棒火矢の考察」『津島岡大遺跡11』岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 3月 「佐伯藩所蔵の鉄砲について」『毛利家資料調査報告書』大分県佐伯市教育委員会
- 5月 「戦いを支えた技術—砲術師と鉄砲鍛冶の活動」日本の時代史12『戦国の地域国家』有光友学編 吉川弘文館
- 6月 「絵画資料に描かれた鉄砲」『歴史地理教育』655
- 2004年 2月 「鉄砲にみる南蛮文化の到来」『歴史学研究』785
- 2月 「砲術史からみた鉄砲伝来」『日本の砲術』板橋郷土資料館
- 3月 「板倉神社所蔵の鉄砲について」『福島市文化財調査報告書』45
- 2005年 3月 「鉄砲伝来と南蛮流砲術の流行」『栃木史学』19
- 3月 「弘化二年十一月十九日牧田亭次郎森重流秘伝書」『福島市の文化財』46
- 2006年 4月 「東国への鉄砲伝播と岸和田流砲術の流行」『戦国織豊期の社会と儀礼』二木謙一編 吉川弘文館
- 10月 「歴史のなかの鉄砲伝来」国立歴史民俗博物館展示図録 編著
- 12月 「幕末の森重流砲術」『銃砲史研究』355 日本銃砲史学会
- 2007年 1月 「初期砲術秘伝書の思想性」『江戸の砲術』板橋区立郷土資料館
- 3月 「安齋實砲術関係資料及び「青圃文庫」コレクション」国立歴史民俗博物館資料目録 5
- 3月 『武具コレクション』国立歴史民俗博物館資料図録 5
- 10月 「鉄砲伝来の実像」「鉄砲の伝播と遍歴の砲術師」「初期砲術秘伝書の武芸観」「銃砲の製作技術」『鉄砲伝来の日本史』編著 吉川弘文館
- 2008年 2月 「銃砲史研究の整理と展望—所氏の業績」『所コレクションと西洋兵学』板橋区立郷土資料館
-

### Ⅲ その他

- 1983年11月 「出発点に立つ海賊の研究」『村上水軍考』愛媛県文化振興財団
- 1985年4月 「海賊の世紀 瀬戸内海海賊衆の興亡」石井謙治氏対談『MDL ニュース』47
- 1988年9月 『国史大事典』9 鉄炮図版解説 吉川弘文館
- 1989年3月 「中世における甲冑の変遷」『長野市立博物館講演集』
- 7月 「家康の天下取りと火砲」「徳川家康水軍の実体」『徳川家康天下制覇への道』別冊歴史読本  
新人物往来社
- 1992年5月 「戦国時代の武器について」『刀防連』全国刀剣防犯協力連合会
- 1993年4月 「火縄銃作品解説」『ポルトガルと南蛮文化展』NHK プロモーション
- 5月 「家康の大砲」『科学の目でみる文化財』国立歴史民俗博物館編
- 7月 「鉄炮の伝来と堺」『FUKUOKA STYLE』7 星雲社
- 11月 「瀬戸内海賊野島氏の凋落と再出発」『エッセイで楽しむ日本の歴史』文芸春秋社
- 1994年10月 「風土と武器」『21世紀の雪ぐにづくりの扉をひらく』雪センター
- 1995年6月 「武者若稲富一夢の実像」『歴博』71 国立歴史民俗博物館
- 1996年7月 「後北条氏の水軍を支えた海将梶原景宗」「武田氏を支えた伊勢の海賊小浜氏」『歴史海流』  
海越出版社
- 1996年8月 「宣伝に使われた海賊」『季刊アーガマ』139 阿含宗出版
- 1997年7月 「伝統技術から再生した国友鉄砲」『江戸時代人づくり風土記（滋賀県）25』社団法人農山漁  
村文化協会
- 9月 「鉄砲鍛冶の権威主義」『戦国武将207傑』別冊歴史読本 新人物往来社
- 1999年3月 「一通の古文書から見た巖島合戦と村上氏一族」『別冊歴史読本』新人物往来社
- 3月 「堺の鉄砲鍛冶」『堺の歴史』朝尾直弘編 角川書店
- 2000年3月 「旗本本多家武芸関係資料の紹介」『国立歴史民俗博物館研究報告』88
- 5月 「豊臣水軍の編成と藤堂高虎」『歴史と旅』秋田書店
- 2001年3月 「アジアを震撼させた倭寇と日本の海賊」『船の科学館』
- 2003年1月 「鉄炮の謎解きに挑戦」『本郷』43 吉川弘文館
- 3月 「戦国・水軍興亡史」『ニッポン海戦史』実業之日本社
- 2004年9月 「歴史の証人・鉄砲の百科事典」『歴博』126
- 2005年7月 「鉄砲伝来のルートをさぐる」『司馬遼太郎街道をゆく』27 種子島みち 朝日新聞社
- 2007年8月 「鉄砲稽古法度」ほか『直江兼統のすべて』花ヶ前盛明監修 新人物往来社
- 10月 「黒色火薬と硝石の製法」『歴史学事典』弘文堂